

第9回独立行政法人都市再生機構業務実績評価有識者会合 議事概要

1. 日時

令和5年6月22日(木) 14:00~16:00

2. 会議形式

WEB会議にて開催

3. 主な出席者

〈外部有識者〉	長 沢 美 智 子	弁護士
	井 上 由 起 子	日本社会事業大学専門職大学院教授
	黒 田 克 司	公認会計士
	中 井 検 裕	東京工業大学名誉教授
〈国土交通省〉	塩 見 英 之	住宅局長
	天 河 宏 文	都市局長
〈都市再生機構〉	中 島 正 弘	理事長
	田 中 伸 和	副理事長
	中 村 功	理事長代理

4. 議事

- (1) 令和4年度及び第4期中期目標期間(見込)における業務実績評価について
 - ①理事長ヒアリング及び自己評価について
 - ②主務大臣評価(案)について
- (2) 令和4年度退職役員に係る業績勘案率(案)について
- (3) 独立行政法人改革において指摘されたリスクの発現状況について

5. 議事概要

- (1) 議事(1)①について
 - 都市再生機構(以下「機構」という。)の令和4年度及び第4期中期目標期間(見込)における業務実績の概要等について、理事長からヒアリングを行った。
 - 機構の令和4年度及び第4期中期目標期間(見込)における業務実績に係る自己評価について、機構から説明がなされ、外部有識者から質疑応答が行われた。
- (2) 議事(1)②について
 - 機構の令和4年度及び第4期中期目標期間(見込)における業務実績に係る大臣評価(案)について、事務局(国土交通省)から説明を行った。
 - 外部有識者から、令和4年度におけるI1(2)「災害からの復旧・復興支援」に対する評価として以下の意見があった。
 - ・防災集団移転促進事業の取組自体は評価しているが、まだ計画づくりの段階であり、今後の展開についてはやや不透明な部分がある。新しい成果が出ているということがないとS評価とすることには抵抗がある。
 - 外部有識者から、第4期中期目標期間(見込)におけるI2(2)「持続可能で活力ある地域・まちづくりの推進」に対する評価として以下の意見があった。
 - ・これまでの年度評価の実績から見ても、B評価が妥当である。
 - このほか、外部有識者から、目標の設定や評価の方法に関連して以下の意見があった。
 - ・非常に成果が出ているものの定量的な指標がないことにより機構の自己評価においてもA評価が

付けにくい項目がある。定量的な指標がないものについても評価できるような新しい考え方や仕組みを、次期中期目標においては是非検討していただきたい。

- ・セーフティネットとしての取組は非常に評価できるところもあり、今後も期待したい。次期中期目標においては新しい指標の検討をお願いしたい。

(3) 議事(3)について

- 独立行政法人改革において指摘されたリスクの発現状況について、事務局(国土交通省)から説明を行った。

(資料: https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_urhyouka02.html)

- 外部有識者から、以下の意見があった。

- ・金利の上昇リスク等に対するヘッジは行われており、短期的にリスクが発現する状況ではないが、自己資本を蓄積し有利子負債を削減できるよう気を配っていただきたい。
- ・現時点でリスクは顕在化していないということだろうが、団地の老朽化に対応する努力は継続的に行っていただきたい。
- ・賃貸住宅の経営を行いつつ住宅セーフティネットに取り組むということについて、方向性を示すことが大事である。

以 上